

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770102626		
法人名	有限会社 そよ風		
事業所名	グループホーム そよの里		
所在地	香川県 高松市 多肥上町 504番地2		
自己評価作成日	令和 5年7月11日	評価結果市町受理日	令和5年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111
訪問調査日	令和5年8月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花や野菜を敷地内にある菜園で作って収穫し、食事の時に提供したり、水やりを楽しんでいる。個々のニーズを的確にとらえ、それぞれに適した支援を行っている。また、利用者のやりがいや達成感につながる支援を提供している。
 そよの里は閑静な場所にあり、自然環境にも恵まれている。木調を生かし、天井が高く開放感があり、暖かく落ち着いた家庭的な雰囲気の中で、のびのびと生活を送っている。平屋建てなので両ユニット同士の交流もし易く、また職員間の連携も図りやすい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所近くには大型スーパーの進出がみられ、住宅地化が進行している。広い道路から外れると事業所の平屋建てが落ち着いた雰囲気を醸している。玄関辺りでは職員や利用者が野菜や花を育てている。隣には有料老人ホームやデイサービスがあり、利用者・職員同士の交流も図られている。事業所は2ユニットあり通路やウッドデッキからユニット間の交流が見られる。責任者はユニット管理者の良き理解者であり、それとなく職員のサポートも行なわれている。管理者は現場で職員達と一緒に働くことで、事業所はチームとして一体感を感じさせてくれる。家族は自宅のような環境で利用者を看てもらえると信頼を寄せ、任せられると評される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念を玄関、事務所、ユニットに掲示し共有している。理念に沿った目標を職員が一人ひとり持ち、向上心につなげている	理念は玄関内に掲げられており、毎日の朝礼で参加者全員で唱和されている。理念は実践の基本方針となり、管理者や職員に引き継がれている。職員も自らの目標を掲げて実践されている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、外部との関わりが3年半弱、途絶えていた。社会情勢を踏まえながら、交流の機会創出を検討している	コロナ禍での交流の中断と、地域の再開発による状況の変化に対応できるよう、新たに地域との繋がりや在り方も模索されている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を深めるため、ユニット単位や施設全体で定期的に勉強する機会を設けている。職員が知識を身につけることで、周りに発信できるようにしている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスが5類へ移行したことで、令和5年6月より従来通り、集会形式での運営推進会議を再開している	内部だけの運営推進会議から5類に移行後、市の介護保険課職員や家族を交えた会議となり、質疑応答が活発になされている。地域住民の参加がなく、参加協力者を拡大するよう努められている	地域の包括支援センター職員や自治会、民生委員や婦人会などに参加を呼びかけ、係わる方々の増加による運営推進会議の充実と更なるサービスの向上に期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	提出書類があれば、関係機関に出向いて、関係を継続できるようにしている。運営上の不明点も市町村に相談し、助言をいただくようにしている	運営推進会議の議事録を翌日までに提出し感想を頂く。問い合わせや相談等には、出向いて直接アドバイスを頂くなどの協力関係が構築されている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能な限り、身体拘束を行わないケアに努めているが、必要になった際はご家族に相談し、同意を得た上で最小限に留めている。身体拘束実施と同時にモニタリングを行い、解除に向けた取り組みを行っている	身体拘束廃止委員会において、毎月1回は、拘束を早期に廃止できるようモニタリング、検討がなされている。施設等も利用者同士のトラブル回避のため実施しているが常に解除の検討がなされている。会議の記録は職員に回覧・閲覧されている	

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の指針を運営規定に盛り込み、全職員が認識を高めることで虐待防止に反映させている。また、委員会の中で高齢者虐待について学ぶ機会を設けている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学び、必要時には権利を活用できるような体制を取っている。現在、成年後見人制度を利用している方が、各ユニットに1名ずつ生活されている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、ご家族に契約書を用いて説明を行っている。不明点、疑問点をクリアにした上で契約締結している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情窓口を設置し、利用者、ご家族の要望に迅速に対応できるよう努めている	家族や利用者の意見等は責任者や管理者・職員がよく聴き取り、定期や随時に集まり、早期の解決に向けての検討がなされている。運営についても、責任者が現場にて管理者に適宜アドバイスをするなど、迅速な対応ができる体制が構築されている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議への参加、管理者間での情報交換を行っている。ユニット単位や個別ミーティングを取り入れ、職員同士の意見交換を行い、サービス向上に努めている	企業全体の管理者会議があり、事業所では管理者や職員をメンバーにした、6つの委員会が運営に関する職員同士の研修や諸意見の収集を担っている。また個別相談やユニット・朝礼等の各ミーティングの機会に意見は取入れられている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を適宜行い、悩み、相談を聞いたりしながら、一人ひとりが能力を発揮できる職場環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会を設け、メンバー中心に月1回定例会を行い、知り得た情報を周囲に発信している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、研修や交流会に参加する機会はなくなっていたが、新規利用者の入居等を同業者と関わる機会と捉えて、サービスの向上に資する情報交換等を行っている		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の求めている事、困っていることにいち早く気づき、相手の気持ちに寄り添いながら、信頼関係を築いている	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者同様、ご家族の意向や気持ちに共感し、双方が穏やかに暮らせるよう努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が抱えているニーズ、ご家族が求めていることを事前にヒアリングした上で、ケアプランの作成、及びケアの実践に努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活に寄り添い、ゆっくりとした時間の中で、共に過ごしながらサービスを提供している。家族に近い存在になることで安心を得られるよう努めている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所された時や、定期的にお便りを送り、施設での生活の様子をお伝えしながら、ご家族、施設双方で利用者の生活を支えている	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	5月8日以降、条件付きでご家族との面会を再開した。以前のように自由に外出することは現在、控えているが、前向きに検討している	5月8日以降、コロナの感染状況を考慮しながら条件付きでの面会が再開されている。家族等の要望や感染対策の方法を工夫して、徐々に交流が広げられるよう検討がなされている状況である
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者間の距離を縮める役割を担ったり、利用者同士の関係を理解した上で、日中の大半を過ごすホールでの席順等も配慮している	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が完結した後も、気軽に立ち寄って頂けるような関係を大切にしている。その方を通じて、次の新規利用者を紹介頂くケースもある	

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりが求めていることや、残存能力も違うため、画一的にならないような個別ケアに努めている	利用者の要望や希望を職員が把握するように努められており、職員間で共有もなされている。家族等からの情報も参考にして、利用者一人ひとりに合わせた個別のケアに努められている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生い立ちや、家族構成、既往歴など、バックグラウンドを用い、今までの生活を大切にしたい、その方らしい生活を目標としている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の行動パターンや普段の言動を繰り返し観察し、情報交換を交えながら支援を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループミーティングで、事例検討を行いながら利用者にとってより良いサービスを提供できるよう、全職員が支援計画に沿った、統一感のあるケアを行えるようにしている	ケアプランはケアマネジャーの原案を基に関係者が集まり検討し、現状に合わせ修正し決定・実践がなされている。出来るだけ多くの関係者の意見が反映されるよう支援計画づくりがされており、利用者個々のケア計画は職員に把握されるよう、ポイントが明記されている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	表情、体調の変化、会話、行動を観察し、記録に残している。記録を通じて、ケアプランの見直しにもつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の少しの変化にも柔軟に対応できるよう、個々のニーズを的確に捉え、介護者それぞれの考え方を活用し、利用者の充実した生活につなげる		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いつまでも地域社会とつながっていただけるよう社会活動に参加することを目標とし、コロナウイルスの消滅を願っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、ご家族の希望に沿った医療が受けられるよう、主治医と連携を取っている。週1回の定期往診で、健康管理、服薬管理を行っており、緊急時や夜間の支援も可能な体制を作っている	かかりつけ医は週1回往診をし、緊急時に対応が可能な体制が築かれている。また歯科医師関係の訪問もある。外部への受診には、家族等と連絡を取り合い、職員が送迎や付き添い等の支援を行っている。看護職員が中心となり、利用者の状況を把握して医師等に引き継ぐ体制も整っている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時の記録、医師からの伝達事項など、看護師を通して職員に周知し、指示通りに対応している。事前に利用者の状況を情報交換することで、往診がスムーズに行えるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と日頃から連携を図り、緊急時に備えている。入院になった際は、入院先の医療機関と積極的に連絡を取り、早期退院に向けたアプローチをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ガイドライン、看取り介護指針に基づき、その方が最期を安心して迎えられるように早期から話し合いを重ね、関係者一体となって、その方の最期に寄り添う	早期より看取りのガイドラインに添って、本人や家族等の希望に配慮し、医師やスタッフ・職員を交えて何度も話し合いがなされている。看取りの実績も多くあり、家族や医師・職員が一体となり終末期が支えられている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル化し、職員が統一した対応ができるよう、マニュアルを掲示したり、最新のものに更新したりし、不測の事態に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練担当者を中心に、定期的に防災訓練を行っている。計画、実践、考察を繰り返すことにより、緊急時に備えられるようにしている	年2回は火災・災害の避難訓練が行われ、うち1回は消防署職員が立会、改善点のアドバイスも受け、備品リストを作成し、直ぐに使用できるようになどの改善がみられる。緊急時の避難に関して、地域住民の協力体制づくりが求められている	事業所近辺は地域の変貌が著しい。運営推進会議等にて協力者の参加を募りながら、地域と事業所が協力する関係づくりにて、更に防災力の高い事業所づくりに期待します

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人権を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けや状況に応じた支援を行っている	利用者の行動や発言を引き出せるような支援が心掛けられており、職員は利用者と共に時間を過ごすことで、気持ちが汲み取れるよう努められている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には、自己選択を優先し、困難な方には、間に入り利用者、ご家族の意向を聞くなどして、自己決定に近づけるよう努めている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとした時間の中で、可能な範囲で、一人ひとりの希望を取り入れた支援ができるよう努めている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択や自由におしゃれを楽しむ事、理美容サービスの利用で清潔な身だしなみができるよう支援している	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の咀嚼力、嚥下力に応じ、ベストな状態で食事提供を行っている。むせやすい方には、早めの段階からとろみ剤を用いたりして、安全で楽しい時間になるよう努めている。また可能な方には、お膳拭きなど簡単なお手伝いもして頂いている。	主食はユニットで炊き、副菜は外注されている。個々の利用者に合わせ、安全に食べやすい形状にて提供されている。食事の準備・片づけ等利用者が職員と共に各々の出来ることで参加されている。手作りでのおやつ時間は楽しみとなっている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提供した食事で十分な栄養が補えない時は代替食品を用いたり、別の形で水分を取る工夫し、最期まで経口摂取できる事を心掛けている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを習慣づけ、清潔維持、誤嚥性肺炎予防に努めている。必要に応じて、訪問歯科診療を利用し、口腔健康の促進を図っている	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄力、排泄パターンを把握し、それぞれに適した支援を行っている。どのような方法になっても残存機能を生かした援助ができるよう努めている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、基本的にはトイレで排泄が出来るように取り組まれている。個々の状況に応じ、本人の残存機能に着目した支援がなされている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になる要因を探し、体操や食事のとり方、有効な運動を取り入れ、排便を促している。必要時には、緩下剤を使用し、便秘による不快感を取り除くよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調やバイタルサインに注意しながら、個々に合わせた方法で入浴援助を行っている。また全身清拭という形で清潔保持するケースもある	入浴は家庭用の浴槽にて1日、2～3人ずつ利用できるよう支援されている。体調の変化によりシャワー浴や清拭でも対応がなされている。浴室は冷暖房を設置して、ヒートショックにも配慮がなされている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	整頓された居室、寝具や空調の管理など住環境に配慮し、年間通して快適な睡眠になるよう努めている。また、昼夜のメリハリをつけるような生活を心がけ、安眠につながるよう、日中の運動も取り入れている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正しく適正に服薬できるよう、複数名で管理している。身体状況の変化等を主治医、看護師に相談し、調整も行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲のお手伝い、趣味を生かしたレク活動など楽しく過ごせるよう、活動援助を行っている。コロナウイルスの5類移行後、2ユニット合同でのレク活動も少しずつ再開している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスが完結したわけではない為、外出は全面的に中止している。一日も早く従来のように自由に外出できることを目標とし、検討を継続している	他事業所からマイクロバスを借りて、近場へのドライブ等実施されている。コロナの感染状況をみながらではあるが、家族や地域の住民等の協力により、買い物や外食などに掛けるような検討がなされている	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族からお預かりした金銭を利用者に代わって管理し、生活に必要なもの、欲しいものをすぐ購入できるようにしている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者宛てに電話があった際は、本人に取り継いで会話が楽しめるよう対応している。また1か月ごとに絵手紙レクを行い、ご家族へ郵送している</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>整理整頓を心がけ、常に安全で快適な生活ができるようにしている。また採光にも配慮し、ストレスを少なくする工夫も行っている。壁画や写真など、季節を感じるができるようにしている</p>	<p>リビングは天井の一部が2階となり、天窓からの採光やシーリングファンがあるため、快適な環境である。壁面は明るい色で、合同作品や写真が掲示されている。利用者は自分の居場所があるようで、落ち着いて過ごされている</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自由に自室、ホール間を行き来でき、プライバシーが守られるよう配慮している。利用者同士のコミュニケーションやレク活動など全員が集まっても快適に過ごせる空間を設けている</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた家具持ち込んでいただき、できるだけこれまでの生活に近いものになるよう努めている。安全に過ごせるよう、危険なものを動線上に置かないよう配慮している</p>	<p>居室入口の表札は、本人が認識しやすい呼び名にされるなど工夫がなされている。室内の壁は本物の木材板で囲われ落ち着いた雰囲気。家具や寝具類は私物が持ち込まれ、慣れ親しんだものに囲まれ過ごされている</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者一人ひとりのライフスタイルに合わせて、事故やケガのない安心した生活が営めるよう、心がけている。居室入り口に表札を付け、他室との区別をつけたり、タンスにラベルを貼ったり工夫することで利用者自身がものを出し入れしやすいような環境を作っている</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	そよの里の理念を、玄関、事務所、ユニットに掲示している。朝礼時に、全員で唱和しその理念を共有し、実践につなげている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	従来、ボランティアによる訪問活動を定期的に行ったり、同地区の行事などに積極的に参加できるようにし、社会の一員として交わっていけるよう援助していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、現在は断念している
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に認知症への理解を深める為の勉強会に参加したり、知り得た情報をご家族や、ご近所さんへの相談や助言に役立てている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を開催し、地域包括の方、ご家族に施設での活動を報告し、助言やアドバイスを頂き、サービスの向上につなげていたが、現在は文書報告にて代行している
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類がある際は必ず出向き、日頃から連携を図っている。運営などでの不明点も市町村に相談し、助言を頂いている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能な限り、身体拘束をしないケアを行っているが、やむを得ず身体拘束が必要になった場合は、ご家族と相談し同意を得た上で、職員間でしっかり検討し、最小限に留めて行っている

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から虐待についての勉強会を行い、職員一人ひとりが、認識することで虐待防止に反映させている
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で権利擁護について学び、必要があれば、サービスを導入できるような体制を整えている
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に施設を見学していただき、質疑応答により、利用者、ご家族に契約内容について十分に理解、納得して頂けるように説明し、同意を得た上で契約を締結している
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者アンケートを実施し、玄関に意見箱を設置したり、苦情委員会、苦情窓口を設け、利用者、ご家族の要望に迅速に対応できるよう努めている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が管理者会議に参加し、職員に同会議での決定事項等を伝達し、業務の統一を図る。またユニット内でミーティングを行い、職員の意見交換の場を設け利用者サービスの向上に努める
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員へ個別面談などを行い、一人ひとりの意見を尊重しながら皆が連携をとりながら働ける職場環境作りに努めている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が定期的に1か月の目標を立て、自己研鑽したり、職員間での勉強会を設けたりして、学習しスキルアップできるよう努めている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換を行ったり、情報の共有を行い双方ともによりよいサービスを提供できるよう働きかけている

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者の求めているものに早く気づき、同じ目線に立って、相手の気持ちに配慮しながら、関係を作っている</p>
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者と同様、共感を持ち、不安に思う要素を受け入れ、双方が安心した生活を維持できるよう信頼関係を築いている</p>
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者の解決すべきニーズに対して、担当ケアマネージャーが事前に本人、ご家族から情報収集した上で、個別ケアによるケアプランを作成し、職員はケアプランに沿ったサービス提供に努めている</p>
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は利用者に寄り添い、利用者が安心して生活が送れるように少しずつお互いの信頼関係を築いている</p>
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族が来所された時や、定期的にご家族へのお便りに利用者の様子をお伝えし、情報を共有することでご家族、施設双方で支えあうことを目標にしている</p>
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族や友人など、大切な方とお付き合いがいつまでも続くよう援助している。また、馴染みの場所など、利用者が大切にしていた歴史を感じていただけるよう努めている</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を理解したうえで、ホールでの席位置にも配慮しながら、利用者同士の交流やコミュニケーション、信頼関係を築くようにしている</p>

22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約完結後も気軽に訪問して頂けるような関係を大切にしている
----	--	-------------------------------

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個人一人ひとりの思いを尊重し、可能な限り要望や希望に応じられるような支援をしている</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>今までの生活を大切にす為、生活歴や生活の様子など、利用者やご家族から情報を集め、その方に合ったサービスを提供している</p>
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>常に利用者の状態を把握し、情報の共有を行い、残存機能の維持や能力に合わせたケアを行っている</p>
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>グループミーティング等で事例検討を行い、利用者、ご家族、職員と定期的に意見交換を行い、利用者のニーズや目標をしっかりと把握した上で介護計画を作成し、職員全員が同じケアが出来るようにしている</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者同士の会話、職員とのやり取り、表情や感情などを記録に残し、状況変化にすばやく対応できるよう、ケアプランの見直しをしながら計画を立てている</p>
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者の状況、ニーズをモニタリングし、本人、ご家族の意見も柔軟に取り入れ、サービスを提供している</p>

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いつまでも地域社会と関わっていけるように、可能な限り外出したり、地域の行事に参加する機会が持てるよう取り組んでいる。現在はコロナウイルス感染の拡大付き控えている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や、ご家族の希望に沿った、医療が受けられるように医療機関と連携をとっている。週1回定期往診で健康管理を行っており、緊急時や夜間での支援も可能である
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医往診時に診察の記録、指示などを行い、利用者の健康管理をしている。利用者の情報を必要時に伝え、往診が滞りなく行えるよう努めている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と常日頃から連携を図り、急変時に備えている。入院中の利用者があるときは、入院先に出向き、ソーシャルワーカーと今後について話し合っている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の尊厳が守られるように終末期のケアについて、早期からよく話し合い、利用者、ご家族が安心して最期を迎えられるよう、看取りケアも取り組み、関係者とともに連携を図り支援している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し掲示して意識を高めたり、定期的に自主訓練を行い、職員全員が同じ対応が出来るようにしている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防局と連携を図り、協力を得ながら、災害時の訓練や緊急時の対処法について学ぶ機会を設けている

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人権を尊重し、プライバシーを配慮した言葉掛けや状況に応じて対応を行っている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる場合は、自己決定を最優先し、困難な利用者には介護者が間に入り、ご家族の希望を聞きながら、自己決定に近づける援助をしている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりに合わせて可能な限り、利用者の希望に沿った支援ができるよう取り組んでいる
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容サービスを利用したり、好みの服装やおしゃれを楽しんだり、清潔感ある身だしなみができるよう支援している
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には、嚥下体操をし、誤嚥防止に努めている。利用者の咀嚼機能、嚥下状態を早期に把握し利用者に応じた形態で、利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。食事の時間が楽しいものであるよう配慮している
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスに考慮した食事を提供している。水分摂取量が少ない時は、代替飲料などで十分な水分が確保できるよう工夫している
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。口腔内の状態を把握し、必要があれば訪問歯科診療を利用し、口腔内健康の維持に努めている。夜間では、義歯を預かり、洗浄消毒をしている

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握することで自立支援を促し、自立で排泄可能な方の声かけや見守りも行っている。一人ひとりの能力に見合った排泄介助方法で援助している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や、便秘解消体操を取り入れ、自立排便困難者には緩下剤で調整しながら快適に排便ができるよう支援している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調に配慮しながら、清潔を目的に入浴を楽しんでもらえるよう支援している。利用者の状態を見ながら、清拭やシャワー浴で個々に沿った支援をしている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、個々に合った活動や運動をして、夜間の睡眠につなげたり、日中の適度な休息で体をリフレッシュできるようにしている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正しく服薬できるよう職員が複数で管理を行い、きちんと服薬できているかの確認も行うようにしている。症状の変化について、主治医や看護師と相談、指示を受けている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや好きなことを日々のレク活動で取り入れ、生活の一部として援助している。ご家族参加型の行事も計画し、楽しんでいただける工夫を行っている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出可能な利用者については、個別で計画書に取り入れ、散歩、ドライブなど季節に応じて外出したり、ご家族が自由に連れ出せる機会を設けていたが、現在は自粛している

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族から現金を預かり、帳簿管理をしながら、代行管理を行っている。生活に必要な物品や嗜好品が自由に購入できる援助を行っている</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>月に一度、絵手紙レクを行い、季節の花や生き物、行事などを絵にし、ご家族や大切な方へ送っている。また、電話での会話ができるような援助も行っている</p>
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>湿度、温度計の設置や、空気清浄機、加湿器、冷暖房の使用で一年中、快適に暮らせるよう努めている。また、シーリングファンを終日稼働させ、24時間換気を行っている。皆が集まるホールや各居室にも季節に合った、飾りを施している</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リラックスできるように、ホールに畳みスペースを確保し、誰でも自由に使えるよう開放している。また、プライバシーが保護されるよう全室個室で一人の時間をゆったりと過ごせている</p>
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具の持ち込みや寝具の使用、思い出の品などを持ち込めるようにし、自宅での生活に近い雰囲気を作っている</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室のドアに表れをつけ、他者との区別をつけたり、トイレの場所が一目で分かるよう目印をつけたり、我が家のように暮らせるよう配慮している。また職員が一人ひとりの行動を見守り、安全に過ごせるよう支援している</p>